



め た せ こ い あ

至 創 努 校
誠 造 力 訓

島根県立吉賀高等学校 〒699-5522 鹿足郡吉賀町七日市 937

電話 (0856)78-0029 FAX (0856)78-0742

HP アドレス <http://www.yoshika.ed.jp/>

吉賀高校のキャリア教育について

吉賀高等学校 校長 熊谷修山

前号で、個人事業主の方は、地域の生活を支えている面が強いと書かせていただきました。生活を支えているということは、地域の住民の皆さんのためですし、同時に住民の皆さんから感謝もされていると思います。そもそも人間は社会的な生き物ですから、必ず誰か他者とかが関わって生きています。特に仕事を通じて、私たち自身が他者から恩恵を受けると同時に、自分の作り出すモノやサービスも必ず誰か他者のためになっているはずで、事業を承継すれば、既にできあがっているそのような関係性も引き継ぐことになり、そして働く喜びも引き継ぐことになると思います。

また、大企業や地方公共団体などの「組織」に属した場合、「分業」が基本ですから、サービスにしろモノにしろその組織全体で創出しているものの「部分」を担当することになります。その「部分」の役割はとても重要ですが、一方で、その「全体」像はなかなか見えにくいところがあると思います。それに対して、個人で行う事業は必ずしも大きくないかもしれませんが、その代わりに例えば「ものづくり」であれば、設計から材料集め・創作・仕上げ、そして販売まで自分でやらなくてはならないため、全体像がよく見えるという面があると思います。自分がやっていることの全体像が見え、相手（お客さん）の喜ぶ顔が見えれば、働くことの喜びや達成感も得やすいのではないのでしょうか。

加えて、地域で個人事業を行っている方は、その地域の様子も見えますので、地域の中においても発言する機会が多くなると思います。自分自身の考えを、思いを地域の中で発言できることは、責任の重さがありますが、裏返せばやりがいでもあると思います。

ところで、吉賀高校のキャリア教育は、『アントレプレナーシップ教育』ということで「起業」がテーマです。事業を継承したのでは「起業」にならないではないかと言われるかもしれませんが、実はゼロから仕事を起こす「起業」に対して、近年注目されてきている「第二起業」という考え方があります。「第二起業」とは、自分の現在の仕事を続けながら、そこにプラスアルファとして新たな事業を加える「起業」の形です。例えば、建設関係の方が、地元のお米を使ったお酒の新商品を開発することなどです。このやり方の場合、仮に新規の事業がうまくいかなかった場合でも、現在の仕事を続けているので、起業時のリスクはかなり軽減されると思います。そして、クラウドファンディングなどを活用できる現代では、むしろ吉賀町のような地方の町の方が起業できる可能性が高いと思います。吉賀町で事業を継承して、そこに新たに事業を加えるというこの発想は、吉賀高校が取り組む『アントレ』の方向性としては、むしろ完全に一致しています。以上のことを考えれば、やはり「高校生が事業を承継することに、夢は大いにある」と十分に言えると思っています。

私は、大きい会社や組織の一員として働くことを決して否定するものではありません。それどころかとても重要だと思っています。ただ、これまで高校現場では「事業承継」について語られませんでした。ここで「事業承継」にスポットを当てることで、「組織の一員として働くこと」も「個人で事業を行うこと」もどちらも重要で、その両者を選択肢として並べることが、生徒の皆さんにとって自分自身の将来の「あり方」を考える契機となることを期待しているのです。

次号でも「事業承継」について、もう少し書かせていただきます。

アントレプレナーシップ吉賀町魅力化・活性化プランの発表会

12月19日（火曜日）2年生は「総合的な学習時間」で取り組んできたアントレプレナーシップ教育で作成した吉賀町魅力化・活性化プランの発表会を行いました。発表の形式は、従来のパワーポイントを使用した形式から模造紙1枚に要旨をまとめ、参加者と距離の近いポスタープレゼンテーションでの「対話を重視」した形式に変更しました。お客様は行政や学校、取材に協力いただいた方々から一般の地域の皆様まで30名近い参加をいただき、自分たちの思いを自分の言葉で「伝える」ことを主体においた発表形式となりました。初めて会う人の前で喋ることに最初は声も小さく戸惑っていた生徒たちも、合計8回のプレゼンテーションの中で、徐々に自分たちの考えたプランに対する「思い」や「感じた事」を言葉にすることによって再確認していくことができました。吉賀町の課題に対して何ができるのかを高校生の視線で考え、この2年をかけて取り組んできたプランに対して、地域の方々との意見交換することでより身近な課題として受け止めることができ、次に何をしなくてはいいかを考えるいい機会になったような気がします。なお、上位3チームは2月14日に開催されるキャリア教育成果発表会に参加します。（坂田）



【お知らせ】吉賀高校キャリア教育成果発表会

日時：平成30年2月14日（水）13:50~16:00 場所：林業センター
吉賀高校の1・2年生（6チーム）が地域を見つめ、吉賀町の未来を考え学習してきた成果を発表します。地域の皆様、保護者の方々も是非お越しいただき、生徒達の成長をご覧下さい。

センター試験受験

1月13日（土）、14日（日）に、山口市の山口大学にて大学入試センター試験が行われ、本校から11名の生徒が受験しました。受験生は前日から山口市内に宿泊し、万全の態勢で試験に臨みました。当日は心配された雪もなく、大きなトラブルに見舞われることもなく無事に全科目を終了しました。今後はセンター試験の結果をもとに出願校を決定し、次の個別試験に向けて準備を進めていきます。受験生の進路実現がなされるよう、学校全体を挙げてサポートしていきます。（堀尾）



よしか米ロゴマーク・表彰式

吉賀米推進協議会が生産・販売される「吉賀米」のネーミングとロゴマークの表彰式が12月22日(金)本校体育館で行われました。同協議会は、農薬や化学肥料を県基準の半分以下に抑えながら、高津川の源流地で安心・安全な米作りに取り組んでおられます。大阪市の米穀店などで販売し、消費者から高い評価を受けていますが、産地間競争が激化する中、他産地との差別化のため新たなブランドを作ることとし、産地ブランドには地域が一丸となった取り組みが必要と考え、町の未来を担う若者のアイデアを取り入れようと本校に協力依頼がありました。(長谷川)

【ロゴマークの説明】 3年2組 大庭智里

「水源のまち吉賀町で育ったお米をたくさん食べてもらえるようにという思いを込めて、高津川から湧く豊かな水の流れがあるのでその川の流れをお茶碗に入れ、中身はその水でおいしく元気に育った吉賀町のお米であるということをイメージして吉の漢字に稲穂を書いてみました。」

【ネーミングの説明】 2年2組 秋山一平

「美玉の意味は、非常に魅力的、または誘惑的にみえる女性という意味です。美しい玉と書くので吉賀で育った美しい米粒を連想できると思います。」

ネーミング賞	2年2組	秋山一平
ロゴマーク賞	3年2組	大庭智里
特別賞	3年2組	松田祥果
特別賞	2年2組	前田愛日



若武者育成塾成果発表会

12月17日(日)、東京にあるアサヒグループ本社ビルにて行われた成果発表会に参加してきました。全国から7校の発表があり、非常にレベルの高い発表会でした。発表者3名(2年・岡崎蒼、元満勇希、大田葉央)は、「高津川魅力化計画」と題し、8月から11月までに実施した環境チームでの活動を中心に発表しました。発表に向けても練習を重ね、自分たちなりに成果を発表できたと思います。また質疑応答に対応する力など、まだまだ身につけてはならない力があることを確認でき、今後に向けての課題を発見することができました。発表会終了後は、ビルの最上階にあるレストランでの懇親会が行われました。アサヒの社員でも入ったことがないという豪華な部屋で、他校の発表の中で出てきたレシピ(鹿のビーフシチューやベジライスバーガーなど)を再現した料理を振舞っていただきました。この約半年間、貴重な経験をさせていただき、生徒たちの成長を見ることができました。また町内の皆様にはアンケートにご協力いただき、ありがとうございました。今後とも、高津川清流日本一に向けて、環境チームができることを活動していきたいと思っておりますので、ご協力よろしくお願ひします。(毛利)



部活動結果報告

【男子バレーボール部】 県新人戦(1月12日～14日 江津市民体育館)

予選グループ戦 吉賀高校 2(25-14、18-25、25-23) 1 松江南高校
吉賀高校 1(17-25、25-17、24-26) 2 隠岐島前高校

松江南高校戦にはフルセットで勝利しましたが、隠岐島前戦にはフルセットの末に僅差で敗れました。今大会で隠岐島前高校はベスト8になりましたので、吉賀高校男子バレーボール部が目標とする県大会ベスト8まであと少しの所まできています。しかし、そのあと少しを埋めるために必要である基礎技術やバレーボール選手としての人間性がまだ不足していると感じます。4月の大会に向けて、そういった点を日頃の生活から見つめ直してしていきたいと思ひます。最後になりましたが、ご声援いただいた皆様ならびにいつも練習相手になって下さっている吉賀高校男子バレーボール部 OB の皆様に厚く御礼申し上げます。(山崎)

【女子バレーボール部】 県新人戦(1月12日～14日 浜田)

予選グループ戦 吉賀2(25-22、29-27) 0 益田翔陽
吉賀0(19-25、18-25) 2 出雲

浜田市で行われた県新人戦では、予選グループ戦の初戦で益田翔陽高校と対戦しました。いつも練習試合をしている相手であり、やりにくい面もあり苦戦しましたが、2-0で勝つことができました。予選グループ戦の2試合目は出雲高校との対戦でした。2セットとも中盤を迎えるあたりでミスを出してしまい、点差を広げられるという展開となり、0-2で敗退しました。今大会は、自分たちの足りない部分をはっきりと出た大会となりました。4月の中国大会予選に向けて、基礎基本を見直し、個人としてもチームとしてもレベルアップできるよう、努力を重ねていきたいと思ひます。当日は遠方にもかかわらず応援に来ていただき、ありがとうございました。(上野城)

七日市小学校との交流について

12月26日に吉賀高校地域クラブ6名と七日市公民館のわくわくクラブに通う七日市小学校の児童13人での交流会を行いました。朝から雪の降る寒い日でしたが、吉賀高校の調理室でライスバーガーを一緒に作成しました。七力祭りで食べたことはあるものの、実際に作るのは初めての小学生に対して、高校生が手伝いをしながら一緒に作り上げたライスバーガーは小学生にとっても格別な味がしたことと思ひます。今回はパテを2種類(焼き肉風と揚げたもの)にして、普段とはまた違った味のライスバーガーを味わいました。高校生にとって普段あまり交流のない小学生との交流の時間は世代を超えた有意義なものとなりました。(坂田)



中高一貫教育だより -吉賀地域中高一貫教育事務局(島根県立吉賀高等学校内)-

中高合同柔道

1月11日に、吉賀町内の4中学校の1年生を対象に合同柔道が行われ50名が参加しました。前日から大雪が降る、とても寒い中での開催でしたが、柔剣道場では熱気にあふれていました。午前の1時間は吉賀高校の1年生と一緒に受け身と寝技を練習しました。中腰姿勢での手押し相撲による「後ろ受け身」や「横受け身」「右前回り受け身」の練習や、中学生が高校生に「けさ固め」を掛けている状態から20秒間の戦いを行いました。集合を素早く実行しながら、明るく充実した時間を過ごすことができました。(福井教頭)

